

のき・まち・るまん

古きよき光景、軒下に集う人々
すまいが”かわる”とともにまちと”かかわる”
忘れ去られていた感覚をまちに呼び戻す

隣に住んでいる人の名前も知らない、顔を合わせても挨拶もしない、そんなことが当たり前になっている現代。高度経済成長期、住宅不足解消を目的としたニュータウン。現在40年以上経過し、なかなか定着して住まう人が少ないことや、また長く住んでいる住民の高齢化が問題となっている。ニュータウンは時代に取り残され、なにか手を打たない限り、街が捨てられるということも十分に起こり得るだろう。そこで街が持続的に活性化するためには、住まう人々が地域とのつながりを感じて暮らせるような環境が必要なのではないか。本計画は、まちと関わるための半外部空間を積極的に作り、住まい方をゆるやかに変化させながら、まちと住まいに愛着を持って住み続けるための改修を提案する。決して強制的なものではなく、気軽でゆるやかなコミュニティ。そんなものがぼつぼつと自然にできあがってゆくような街づくり。個の建築（ハード）によってまちのシステム（ソフト）を作る第一歩となると期待している。



■提案する改修工事概要

本提案は、プライバシーへの極度な配慮から形成されてきた現代の住宅のデザインを否定し、失われてしまった古きよき慣習を呼び戻すための改修提案である。大きな軒下空間を作り、外部との関わりを積極的に持つように計画するとともに、住人が長く住み続けるために、家族構成や住まい方が変わっても柔軟に対応できる住宅を目指し、ここでは2段階の変化を想定してプランを提案する。
・大きな改修の内容としては以下が挙げられる。
Ⅰ：南道路側に向かって、大きく開かれた半外部空間を作る。
Ⅱ：柱の位置や耐力壁は極力残して、家族構成に合わせたプランに変更する。
Ⅲ：長く住むために断熱性能を重視し、室内側から断熱補強を行う。

□想定する家族構成

住まい始めるときは喫茶店を営む夫婦2人と小さな子供がいる3人家族。
1st renovation では1階で喫茶店を営み、2階を住居とする。
年月を重ねて子供も大きくなり、やがて家をでていき、歳をとった夫婦もそろそろ働くことよりも、お互いに自分の趣味や好きなことに時間を費やしたい。
2nd renovation ではバリアフリーに考慮して住居を1階に移し、2階は賃貸アパートとして一人暮らしの若者に住んでもらう。
住まい方が変わっても、いつまでも軒下空間は残り、地域の人々との拠点となるよう魅力を発信し続ける空間となるようにしたい。

■提案にかかる改修工事費 ※1st renovation に対して

□解体工事一式（外部、内部、設備取り外し、産廃処理）	1,000,000
□仮設工事（内部・外部足場、養生、清掃）	300,000
□木工事（構造材、建材、大工手間）	5,000,000
□板金工事（増設屋根部分、樋、各部水切り）	700,000
□防水工事（木製サッシ廻り・新設外壁部分テープ、各部コーキング）	300,000
□外壁工事（新設壁左官塗り・トップコート、既存壁塗り替え）	2,000,000
□タイル工事（新設テラス部分、サンルーム床タイル）	600,000
□金属建具工事（一部アルミサッシ入れ替え、既存開口部に内窓設置）	800,000
□木製建具工事（南側木製サッシ、玄関扉、室内各間仕切り戸）	1,200,000
□内装工事（フローリング貼り替え）	800,000
□室内塗装工事（室内壁EP塗装、木部OS塗装）	1,000,000
□設備機器工事（システムキッチン、ユニットバス）	1,500,000
□断熱補強工事（壁・屋根のセルロースファイバー断熱充填）	1,000,000
□電気・ガス・給排水設備工事（照明、コンセント、空調、衛生設備など）	2,000,000
□雑経費	1,800,000
概算見積合計	20,000,000

before plan

部屋数が多くとれることで豊かな住まいになるという古い考え方に基づいて設計された住宅である。外部との関わりに対する意識が希薄で、関係性が内部で完結している。上記内容を問題と捉え、改修を提案する。改修にあたり、以下の点に留意し計画をした。
・柱、開口部は既存位置からずらさないようにする。
・水回り（キッチン、トイレ、洗面脱衣室、浴室）の大きな配置移動を避ける。
・室内の段差もバリアフリーの観点から取り除く。

